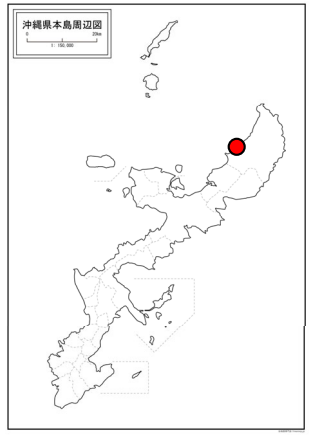
35.【陸域：臨港道路】漁業者と観光客の動線分離のための臨港道路の整備：国頭浜漁港（沖縄県国頭村）

概　要

○ 国頭浜漁港では、水産物の地産地消と地域活性化のための拠点施設の整備を計画する中で、施設利用者と漁港施設利用者の動線が交錯し、施設利用者の利便性の低下が課題。
○用地交換を実施して食堂周辺の臨港道路の線形を見直すことにより、食堂利用者と漁港施設利用者の車両動線を分離。
○ 漁港内の車両走行の安全性が向上し、双方の施設利用者の利便性が向上。



背　景

- 国頭浜漁港周辺はモズク養殖に適した漁場が広がっている。漁業活動に資する施設整備と、高齢化・過疎化が進行する漁村の活性化を目的に、平成21年度より漁村再生交付金事業を推進。
- その計画において食堂を建設予定であったが、食堂利用者と漁港施設利用者の車両動線が交錯しない施設配置が課題であった。

有効活用の内容

- 食堂の建設予定地である漁港環境施設用地（村単独用地）を迂回するようにクランク状であった臨港道路の線形を、臨港道路と漁港環境施設用地（村単独用地）を交換することで直線に整形。
- 臨港道路の線形の見直しにより、休憩所や緑地の環境施設及び食堂利用者と漁業活動の棲み分けが可能に。

活用した漁港施設	漁港施設用地（補助用地である臨港道路と、単独用地である漁港環境施設用地の交換）
実施時期	H23（臨港道路）、H24（休憩所）、H25（植栽・張芝等）
実施主体	臨港道路等：国頭村、食堂整備：国頭漁業協同組合
活用した事業	漁村再生交付金 （食堂の整備は、漁協単独費用によりH28年度に実施。）
実施した手続き	用地交換、占用許可

国頭浜漁港

効果

- 食堂利用者と漁業活動が交錯しない施設配置となり、漁港内の車両走行の安全性向上・利便性が向上
- 国頭港食堂の平成29年から令和元年の利用者数は年平均約3万人、売上金額は約4,000万円であった。